



総研大ニューズレター

第58号 2013.3 発行

●目次

【今月のトピックス】	「学長イニシアティブ事業 第2回総研大 異分野結合フォーラム」 ～異分野の壁を乗り越える～を開催	総務課
	「平成24年度 統計科学専攻 学生研究発表会」	統計科学専攻
	「物理科学研究科核融合科学専攻アジア冬の学校開催」	核融合科学専攻
	「真山聡助教授の研究発表をプレスリリース」	学融合推進センター
	「西田篤弘総研大元理事・宇宙科学研究所名誉教授 文化功労者記念祝賀会」	学融合推進センター

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定	
3月3日～9日	国立遺伝学研究所 体験入学
3月6日	国立遺伝学研究所 見学会
3月20日	自然科学研究機構 シンポジウム
3月21日	長倉研究奨励賞 発表会
3月21日～22日	総研大 学術交流会
3月22日	長倉研究奨励賞 授与式
3月22日	学位記授与式

【今月のトピックス】

● 学長イニシアティブ事業 第2回総研大「異分野結合フォーラム」～異分野の壁を乗り越える～を開催

平成25年1月31日(木)に、学長イニシアティブ事業第2回総研大「異分野結合フォーラム」～異分野の壁を乗り越える～が学融合推進センター1階ホールにおいて開催されました。

このフォーラムは、整合性の概念の分類とその分類に応じた科学的接近法、確率論的実在である量子力学的世界からみた学問の総合化、学際研究として複合科学が目指したものなど、要素還元論に対する全体論あるいは設計科学の役割、そして仮構である言語世界の整合性などに関して焦点を絞った発表と意見交換を行うためのものです。

講演者は、市川惇信 東京工業大学名誉教授、湯川哲之 総合研究大学院大学名誉教授、麻生武彦 国立極地研究所／総合研究大学院大学名誉教授、荒木義修 武蔵野大学教授、立川武蔵 国立民族学博物館／総合研究大学院大学名誉教授、ディスカッションリーダーは、高畑尚之 学長、池内了 理事、長野泰彦 理事、永山國昭 生理学研究所特任教授／総合研究大学院大学名誉教授が務めました。

当日は、講演とディスカッションを1セットとし、講演者、ディスカッションリーダー、及び参加者による活発な議論が行われ、講演の部終了後も、夜中まで積極的な意見交換が行われました。



【フォーラムのプログラム】

主催者挨拶 高畑尚之（総合研究大学院大学学長）

講演① 「モデル依存整合性 ―科学の対象の拡大のために―

市川惇信（東京工業大学名誉教授）

ディスカッションリーダー 高畑尚之（総合研究大学院大学学長）

講演② 「多世界宇宙と多世界社会―学問総合化の一視点―

湯川哲之（総合研究大学院大学名誉教授）

ディスカッションリーダー 池内了（総合研究大学院大学理事）

講演③ 「学際研究-複合科学の目指したものなど」

麻生武彦（国立極地研究所／総合研究大学院大学名誉教授）

ディスカッションリーダー 池内了（総合研究大学院大学理事）

講演④ 「設計科学と文理融合・超学際（trans-disciplinarity）アプローチ」

荒木義修（武蔵野大学教授）

ディスカッションリーダー 永山國昭（生理学研究所特任教授／
総合研究大学院大学名誉教授）

講演⑤ 「言語と空」

立川武蔵（国立民族学博物館／総合研究大学院大学名誉教授）

ディスカッションリーダー 長野泰彦（総合研究大学院大学理事）

懇談会



【文責：総務課】

● 平成24年度 統計科学専攻 学生研究発表会

平成24年度統計科学専攻学生研究発表会が、平成25年2月8日（金）10時30分より17時30分の間、統計数理研究所セミナー室1において行われました。統計科学専攻においては、学生の研究の進捗を専攻全体で共有し、それらの研究のさらなる発展をはかるための議論の場として、年に2回の発表の場を設けています。年度の前半には研究教育職員やポスドク研究員とともに学生もポスター発表を行うことになっており、これは統計数理研究所オープンハウスの行事のひとつになっています。そして年度の後半には学生のみによる口頭発表会を開い

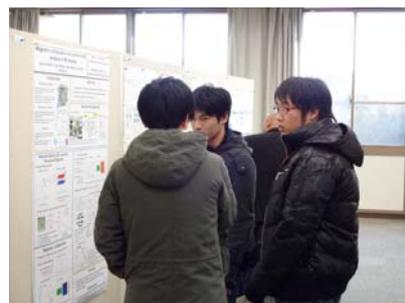


ています。今回の発表会は後者にあたるものです。これらの発表会への参加は原則として全学生の義務であり、また権利でもあります。今回も入学後間もない学生や職場の都合で欠席せざるを得ない社会人学生など特別な事情のある者を除き、ほとんどの学生が一人15分程度の持ち時間で口頭発表を行いました。また、各人2ページの発表要旨をまとめた学生研究発表会報告集が作成されました。発表と報告集を元に、参加した学生、ポスドク、教員による討論が活発に行われました。

【文責：統計科学専攻】

● 物理科学研究科核融合科学専攻アジア冬の学校開催

平成25年1月29日(火)から2月1日(金)まで総合研究大学院大学(総研大)アジア冬の学校核融合科学専攻が核融合科学研究所(NIFS)で開催されました。海外からは中国、韓国、インド、台湾、エジプト、ロシア、ハンガリーの7の国と地域から15名、国内からは9名の総計24名の参加がありました。初日の開校式では小森専攻長の歓迎の挨拶の後、研究所図書館棟前での記念撮影、核融合科学研究所の紹介などが行われました。



2日目には核融合研究の発展、プラズマ粒子シミュレーション、核融合炉の燃料補給の研究に関する講義があり、その後、参加者および総研大生をはじめとするNIFSで活動している学生や研究者のポスター発表会が開催され活発な議論が行われました。このポスター発表会は核融合科学専攻で学ぶ総研大生の研究活動を理解してもらうとともに参加者とNIFSスタッフとの交流を図ることを目的として毎回開催されています。3日目には、周辺プラズマ、材料のシミュレーションおよび電磁場計測に関する講義、大型ヘリカル装置(LHD)の見学、バーチャルリアリティ(VR)装置 ComplexScope での3次元仮想空間体験が行われました。LHD見学では実際の大型装置とともに過去に作られた装置なども見学し、VRでは、参加者一人一人が実際に装置を操作してVR空間を移動しながらシミュレーションデータの解析を行うなど、貴重な体験をしました。最終日にはジャイロ運動論シミュレーションの講義および総研大の紹介に引き続いて閉校式をおこない、4日間のスケジュールを終えました。この総研大アジア冬の学校は総研大物理科学研究科の5専攻の教育・研究活動を国内外の学生や若手研究者に広く供するために、平成16年度より開催されています。本年度は、「世界を眺める新しい目」を5専攻共通テーマ、「プラズマ物理と核融合科学における複合的アプローチ」を核融合科学専攻のサブテーマとし、例年と同様にシミュレーション科学教育講座との共催として行われました。参加学生の中には総研大への進学希望者もあり、総研大およびNIFSの活動を内外に知ってもらうための企画として重要な役割を果たしています。



LHD 実験制御室見学

【文責：物理科学研究科 核融合科学専攻 石黒静児教授】

- 学融合推進センター 眞山聡 助教の研究発表をプレスリリースし、神奈川、毎日、読売、産経、朝日、赤旗新聞、時事通信、共同通信で紹介されました。

「太陽系外惑星が作る『腕』の検出に成功」



【研究概要】

本学学融合推進センター眞山聡助教を中心とする研究チームは、さそり座 J1604 星と呼ばれる若い星の周囲にある原始惑星系円盤に、惑星が作る「穴」、そして穴をまたいで内部に伸びる「腕」構造を、すばる望遠鏡で直接撮像することに成功しました。世界最高精度の解像度で原始惑星系円盤の姿を観測することで穴をまたぐ腕構造を鮮明に写し出し、さらにその腕が曲がっていることを突き止めた点で画期的な観測成果です。観測で写し出された腕構造はその付近で生まれつつある惑星によって引き起こされた可能性があります。J1604 星は太陽と似た質量の天体であるため、惑星がどこでどのように生まれるのかという太陽系誕生の謎を解明する上で、本研究成果は重要な手がかりを与えてくれそうです。

【詳細研究内容】

<研究背景>

私たちの住む太陽系にある惑星はどのようにして誕生したのでしょうか？およそ 46 億年前、生まれたばかりの太陽の周囲にはガスや塵が円盤状に存在していたと考えられます。この円盤中では塵の集積によって微惑星ができ、さらに微惑星同士が合体・成長したり、ガスを捕らえたりすることで惑星が生まれたと考えられています。このガスや塵の円盤状の集まりは原始惑星系円盤と呼ばれます。惑星が生まれる現場であるため、大変重要な観測対象です。

中心にある恒星が数 100 万歳の年齢に達する頃、原始惑星系円盤の中心部分からガスや塵が無くなっていき、惑星が活発に形成されると考えられています。このとき、惑星の材料である塵は円盤の外側にはまだ豊富に残るものの、内側では消失しつつあり、それが円盤内の穴（空洞）として観測されます。この穴は、円盤内で既に誕生している惑星の影響で作られた可能性があるため、惑星誕生の謎を解き明かす鍵となります。しかしながらすぐ近くに明るい中心星があるために、円盤内側に存在する穴を観測で直接とらえるのは大変困難でした。さらに穴内部に惑星形成の兆候を示すような構造を持つ天体は、これまでほとんど見つかっていませんでした。

<すばる望遠鏡観測結果>

研究チームは、惑星誕生の謎を解き明かすために、すばる望遠鏡に搭載された惑星探査用赤外線カメラ HiCIAO（ハイチャオ）及び大気揺らぎの影響を補正する補償光学装置を用いて観測を行いました。観測対象は、地球から距離約 470 光年にある、年齢約 370 万歳、太陽と同程度の質量のさそり座 J1604 星です。観測では、地球型惑星の主材料である塵粒子が、中心星からの赤外線を散乱した光をとらえました。観測の結果、まず(1)中心星を取り囲む原始惑星系円盤、(2)円盤上の穴、(3)円盤内縁から穴をまたいで内部に伸びる腕状構造、そして(4)円盤上の非対称なくぼみ構造を検出しました。0.07 秒角（1 秒角が 1/3600 度）という世界最高精度の解像度で原始惑星系円盤の姿を観測することで穴をまたぐ腕を鮮明に写し出し、さらにその腕が曲がっていることを突き止めたという点で画期的な観測成果です。アルマ望遠鏡による電波観測で HD 142527 という

星にガスでできた腕構造が見つかった例はありますが、塵でできた腕構造が太陽と似た質量の天体で直接検出されたのは、本研究が初めてです。また今回の観測から、写し出された円盤の内縁半径は 63 天文単位（1 天文単位は太陽と地球との平均距離で 1 億 5000 万キロメートル）、中心星から腕までの距離は 33 天文単位（およそ太陽-海王星間の距離）と計測されました。

<観測結果の解釈>

原始惑星系円盤と惑星との相互作用についての理論的研究によると、円盤中に惑星が存在した場合、惑星からの重力により、弧状に曲がった構造が惑星周囲に作られることが知られています。今回 J1604 星で見つかった腕構造の形状や曲がる角度が、理論研究からの予想とよく似ていることから、この腕は生まれつつある惑星によって作られたものであると考えられます。さらに惑星は円盤内に非対称な構造も作ります。J1604 で写し出された円盤に見られるくぼみ部分がそのような例ではないかと、研究者グループは考えています。

また、穴の成因にはいくつかの説がありますが、J1604 の観測で検出された穴の深さと幅が、惑星形成理論で提言されている「惑星が作る穴」と良く一致していることから、これもまた J1604 には埋もれて隠された惑星があることを示唆するものです。この場合、中心星から 40-50 天文単位の領域に惑星があると思われます。

<まとめと今後>

本研究は惑星のダイナミックな誕生環境を鮮明に描き出しました。特に、原始惑星系円盤の穴をまたぐ腕の観測に成功し、本天体で形成されつつある惑星の兆候を捉えました。これは惑星が誕生可能な環境条件を明確にしたという意味で重要です。また本天体は、円盤が地球に対してほぼ正面向きであることから、円盤内部の構造を観測しやすい向きとなっています。このため原始惑星系円盤の構造をモデル化するのに理想的な天体であり、理論研究の専門家の興味を強く惹きつけました。J1604 は今後も引き続き、実態により近い詳しい理論を作り上げる上で適した観察対象であると言えます。このような研究をより一層進めることにより、どのような環境で惑星が生まれやすいのかという謎が解かれていくでしょう。そしてそれは、私たちの住む太陽系のような惑星系で、中心星からどの程度の距離にどうやって惑星が生まれ得るのかという誕生の物語を紐解く鍵を握っているのです。



<研究チーム>

本研究は、総合研究大学院大学の眞山聡助教を主体に、日米台独仏 55 名の共著者によって論文が、米国の天体物理学専門誌「アストロフィジカルジャーナル・レター」のに 2012 年 12 月 1 日号に掲載出版されました。

メンバーは国立天文台、米国・プリンストン大学、NASA、ドイツ・マックスプランク天文学研究所などの研究者によって構成されています。

＜本研究の主要研究メンバー＞

眞山聡（総合研究大学院大学、論文筆頭著者）、橋本淳(国立天文台)、武藤恭之（工学院大学）、塚越崇（茨城大学）、日下部展彦(国立天文台)、葛原昌幸（東京大学/国立天文台）、高橋安大（東京大学/国立天文台）、工藤智幸(国立天文台)、深川美里(大阪大学)、高見道弘（台湾中央研究院天文及天文物理研究所）、百瀬宗武(茨城大学)、周藤浩（国立天文台）、田村元秀(国立天文台/総合研究大学院大学)、

R. Dong, R. Rafikov, Z. Zhu（プリンストン大学）、B. Whitney（ウィスコンシン大学）、J. P. Wisniewski（オクラホマ大学）、K. Follette（アリゾナ大学）、J. Carpenter, A. Isella(カリフォルニア工科大学)

【文責：学融合推進センター】

● 西田篤弘総研大元理事・宇宙科学研究所名誉教授 文化功労者記念祝賀会



2004年4月から2008年3月まで総合研究大学院大学理事を務められた西田先生の文化功労者記念祝賀会が2月24日に明治会館で開催されました。

西田先生は1958年に東京大学理学部物理学科を卒業以来、宇宙空間物理学分野で活躍されました。本祝賀会においても宇宙科学研究所などその研究分野の多く研究者が集まりました。

西田先生は宇宙プラズマ研究に留まらず、日本の学術の振興に尽力されました。このことは小林誠先生をはじめ多くの方の祝辞から知ることができました。

西田先生は日本地球惑星科学連合の枠組みを作り、アジアの宇宙科学研究を推進させようと日韓合同シンポジウムを成功させ、若手育成の仕組みを考え…。本当の意味でのリーダーとして素晴らしい方であることを再認識しました。

【文責：学融合推進センター 講師 岩瀬 峰代】

【各種募集】現在公募中の情報

事 項	応募期間	提出先
平成 25 年度共同開発研究等	平成 25 年 6 月 28 日(金)必着 (研究集会第 2 回)	国立天文台研究支援係
http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/kouryuu/koubo/h25kyodo.html		

【イベント情報】

● 総研大の行事

3 月

日程	時間	行事名	場所
3 日(日) -9 日(土)		遺伝研体験入学	国立遺伝学研究所
http://www.nig.ac.jp/jimu/soken/html/nyugaku/taiken/taiken.html			
6 日(水)		遺伝研見学会	国立遺伝学研究所
http://www.nig.ac.jp/jimu/soken/html/nyugaku/taiken/taiken.html#tour			
20 日(水 ・祝)		自然科学研究機構 シンポジウム	学術総合センター
http://www.nao.ac.jp/outreach/event.html			
21 日(木) -22(金)		学術交流会	葉山キャンパス
http://www.soken.ac.jp/news_all/2893.html			
21 日(木)		長倉研究奨励賞 発表会	葉山キャンパス
22 日(金)		学位記授与式	葉山キャンパス
http://www.soken.ac.jp/news_all/2893.html			
22 日(金)		長倉研究奨励賞 授与式	葉山キャンパス
27 日(水)	10:00-	基礎生物学研究所(基礎生物学専攻) オープンキャンパス・大学院説明会	基礎生物学研究所
http://www.nibb.ac.jp/graduate/index.html			
30 日(土)	9:30-18:00	総研大 学融合プロジェクト シンポジウム 「情報を考える」	東京カンファレンスセンタ 一品川
http://www.soken.ac.jp/news_all/2888.html			

4 月

日程	時間	行事名	場所
8 日(月)		入学式	葉山キャンパス
http://www.soken.ac.jp/news_all/2899.html			
8 日(月)		総合研究大学院大学 学長賞ポスター発 表会・授与式	葉山キャンパス
8 日(月) -9 日(火)		学生セミナー	葉山キャンパス
http://www.soken.ac.jp/news_all/2899.html			

5月

日程	時間	行事名	場所
3日(金・祝)		湘南国際村フェスティバル2013	葉山キャンパス
11日(土)	13:00-	基礎生物学研究所(基礎生物学専攻) 大学院説明会 http://www.nibb.ac.jp/graduate/index.html	秋葉原UDXカンファレンス
18日(土)		遺伝研大学院説明会	国立遺伝学研究所

● 基盤機関の行事

3月

日程	時間	行事名	場所
2月13日(水) -3月31日(日)	9:30-16:00	特集展示 和宮ゆかりの雛かざり	国立歴史民俗博物館
3日(日)	14:30-15:30	みんぱくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第290回 「客家建築の世界」	国立民族学博物館
9日(土)	12:30-15:30	点字教室	国立民族学博物館 エントランスホール
9日(土)	13:00-15:00	第351回歴博講演会「人と動物の考古学」	国立歴史民俗博物館
9日(土)	14:30-16:00	【やっぱりヨーロッパ春のみんぱくフォーラム2013】 パンセミナー「イタリアの日常生活とパン」	国立民族学博物館
13日(水)	10:30-18:00	国際シンポジウム ~ビッグデータ時代における 多メディア社会分析技術とその展望~ 主催:国立情報学研究所 http://www.nii.ac.jp/event/symposium/20130313/	ベルサール神保町 3階会議室
14日(木) -6月11日(火)	10:00-17:00	特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」	国立民族学博物館 特別展示館
16日(土)	10:30-16:30	【特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」関連】 ワークショップ「ザフィマニリの腰かけづくりに挑戦！」(イサチーム・1回目)	国立民族学博物館
16日(土)	13:30-15:00	【やっぱりヨーロッパ春のみんぱくフォーラム2013】 第419回みんぱくゼミナール 「家族の今—イタリアの事例から考える」	国立民族学博物館
17日(日)	13:30-15:00	国際シンポジウム 「文化を展示すること—日本とヨーロッパの遠近法を考える—」	国立民族学博物館

17日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第291回 「学校教育の中の八重山芸能」	国立民族学博物館
17日(日)	15:00-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」関連】 ワークショップ「ザフィマニリの敷物を編もう」『くらしに生きる編みもの』	国立民族学博物館
18日(月)	15:00-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」関連】 ミニレクチャー	国立民族学博物館
19日(火) -9月23日(月)	9:30-17:00	第4展示室 特集展示 人間文化研究機構連携展示「東日本大震災と 気仙沼の生活文化」	国立歴史民俗博物館
21日(木)	8:00-9:50	公開ワークショップ「グローバル支援の人類学 ー市民社会間で互恵的紐帯をいかに形成するか」 主催:国立民族学博物館	Marriott City Center Hotel(米国コロラド州 デンバー市)
22日(金)	10:00	本館展示新構築 日本の文化のうち「祭りと芸能」と「日々の暮らし」 オープン	国立民族学博物館
22日(金)	18:30-20:45	学術講演会「なんだ?日本の文化ってー芸能から MANGAまで」 主催:国立民族学博物館	オーバルホール
23日(土)	13:30-15:30	第168回くらしの植物苑観察会「春を告げる華 花-祝いと祈りの草木たち-」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
23日(土)	13:30-16:30	みんなく映画会「人生、ここにあり!」	国立民族学博物館
24日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第292回 「エチオピア、音楽職能の世界」	国立民族学博物館
24日(日)	未定	国際シンポジウム 「博物館は悲惨な記憶をどう展示するか」	国立民族学博物館
25日(月)	15:00-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」関連】 ミニレクチャー	国立民族学博物館
31日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第293回 「韓国人主婦がカナダ生活で困るモノー外から みた韓国物質文化」	国立民族学博物館

4月

日程	時間	行事名	場所
1日(月)	15:00-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」関連】 -ワークショップ「ザフィマニリの敷物を編もう」 『ザフィマニリ式道具の使いかた』 -ミニレクチャー	国立民族学博物館

7日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第294回 「ザフィマニリの編みもの」	国立民族学博物館
8日(月)	15:00-15:30	特別展【マダガスカル 霧の森のくらし】関連 ミニレクチャー	国立民族学博物館
9日(火)	14:00-16:00	第266回日文研フォーラム 「武術伝授に見る東西両世界」	ハートピア京都3階大 会議室
http://www.nichibun.ac.jp/event/index.html			
13日(土)	13:00-15:00	第352回歴博講演会「民俗研究とアイヌ・沖縄 の文化」	国立歴史民俗博物館
14日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第295回 「マダガスカルにおける狩猟採集民のくらし」	国立民族学博物館
15日(月)	15:00-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」関連】 -ワークショップ「ザフィマニリの敷物を編もう」 『映像でみせるザフィマニリ』 -ミニレクチャー	国立民族学博物館
4月16日(火) -5月6日 (月)	9:30-16:30	伝統の桜草	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
20日(土)	14:30-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」関連】 第420回みんなくゼミナール 「マダガスカル 霧の森のものづくり」	国立民族学博物館
21日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第296回 「マダガスカルの言語文化のルーツと変化」	国立民族学博物館
22日(月)	15:00-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」関連】 ミニレクチャー	国立民族学博物館
27日(土)	13:30-15:30	第169回くらしの植物苑観察会「武士が育てた 桜草」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
28日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第297回 「マダガスカルの織機と織物」	国立民族学博物館

5月

日程	時間	行事名	場所
3日(金)	10:00-17:00	Fusion フェスタ in Tokyo-2013 -核融合！未来を創るエネルギー	日本科学未来館
4日(土)	13:30-15:30	第18回歴博映画の会「東北のまつり-映像による 記録の過去・現在・未来」	国立歴史民俗博物館
11日(土)	13:00-15:00	第353回歴博講演会「祭りを継承する絆の創造 -祭り研究の最前線から-」	国立歴史民俗博物館

12日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第298回 「マダガスカルは無形文化遺産ザフィマニリ彫刻 の映像記録」	国立民族学博物館
18日(土)	14:30-15:30	【特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」関連】 第421回みんなくゼミナール 「マダガスカル 霧の森にくらす人びと」	国立民族学博物館
19日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第299回 「マダガスカル農村部の日常生活と墓制」	国立民族学博物館
25日(土)	13:30-15:30	第170回くらしの植物苑観察会「佐倉城址の森 について」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
26日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第300回 「マダガスカル展 もうひとつの準備現場」	国立民族学博物館

【その他の情報等】

○ 出版情報

複合科学研究科

情報学専攻『情報研シリーズ』新刊案内(3月下旬発売予定)

「これも数学だった!ーカーナビ、路線図、SNS」

河原林 健一、田井中 麻都佳 著

「ソフト・エッジーソフトウェアの開発の科学を求めて」

中島 震、みわ よしこ 著

【編集後記】

総研大ニューズレター58号をお届けします。

いよいよ3月となりました。桜の花はまだですが、梅の花は咲き乱れ、コブシやミモザの花も膨らみ始めてきています。また、葉山から南に位置する三浦海岸では、河津ザクラ、菜の花、水仙が見頃となっています。

3月22日には学位記授与式が挙行されます。平成3年度に当時の文部省令の大学設置基準と学位規則が改定され、それまで学位記には、文学博士、理学博士、工学博士などと標記されていましたが、改訂後は、博士（文学）など専門分野が付記されるようになりました。本学の場合、平成3年度末に最初の修了生が誕生していますので、文学博士、理学博士などはおられないこととなります。

さて、修了生の皆さまの学位記には、どのような専門分野が付記されているのでしょうか。学位記を胸に、まずはその専門分野でのご活躍を祈念しております。

広報室 T.S.



◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、発表や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と標記していただけますようご協力をお願いします。

発行 2013年3月13日

編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報室（担当）

TEL 046-858-1500/FAX 046-858-1542

©2013 SOKENDAI